

特集：住環境の害虫

巻頭言

ついに四十代最後の一か月と成りました。あっという間の五十年、ふと気づくと、四十代を振り返り、五十代のこれからを考えている自分がいます。

四十代になったころのことを振り返ると、やはり五十代を迎える今と同じ様に悩んでいた気がします。孔子の論語にある「四十にして惑わず」は「四十に成ってあれこれ惑う事が無くなった」と解釈されますが、これは逆で「人生に惑う事が無いようにするにはどうしたら良いか、四十代で考えなさい」と云う教えだと勝手に解釈していました。不思議なもので求めていると答えは見つかるものだなと思いましたが、そんな時出会った言葉が宮本武蔵の「我、ことにおいて後悔せず」です。四十代の私の座右の銘と成った言葉ですが、これは「後悔は必ずする。しかし、努力してした後悔と努力せずにした後悔は全く違う」と云う意味だと理解しています。後悔してもそれを乗り越え、前を向ける様な努力を常にする四十代に成りたいと思っていました。（出来たかは別ですけど・・・）

五十代のこれからについてもやはり悩み考えてしまいます。論語では「五十にして天命を知る」つまり「天が自分に与えた役割を悟った」と云う事になりますが、これも逆で「人生における自分の役割を見つけなさい」と云う事だと勝手に解釈することにしました。すると先日これまた不思議なことで、ある言葉と出会いました。それはマキャベリの君主論の一節で「事業の成否は、参加する全員が利益を得るシステムを作れたか否かだ」と云う言葉です。まさにその通りだと思えました。国家を統治することは会社を経営することと同じで、統治の成功は国民が豊かになるかどうかであり、会社経営の成功は従業員が豊かになれるかどうかであると云う事だと思えます。そして廻り回って自分も豊かになることが出来るのだと思えます。そんな「みんなが豊かになるシステム」が出来るよう、これこそ後悔しないよう、常に考え努力する五十代にしたいと思えます。そうなればきっと廻り回って自分も豊かになり、六十代にはそのままの「六十にして耳順う」の境地に成れるのではないかと思います。

五十代に成っても精神構造は二十代の頃と変わっていないと感じます。しかし、体は正直です。座骨神経痛に口内炎（三か所も）が重なり満身創痍、辛いです。

（雅）

住環境の害虫

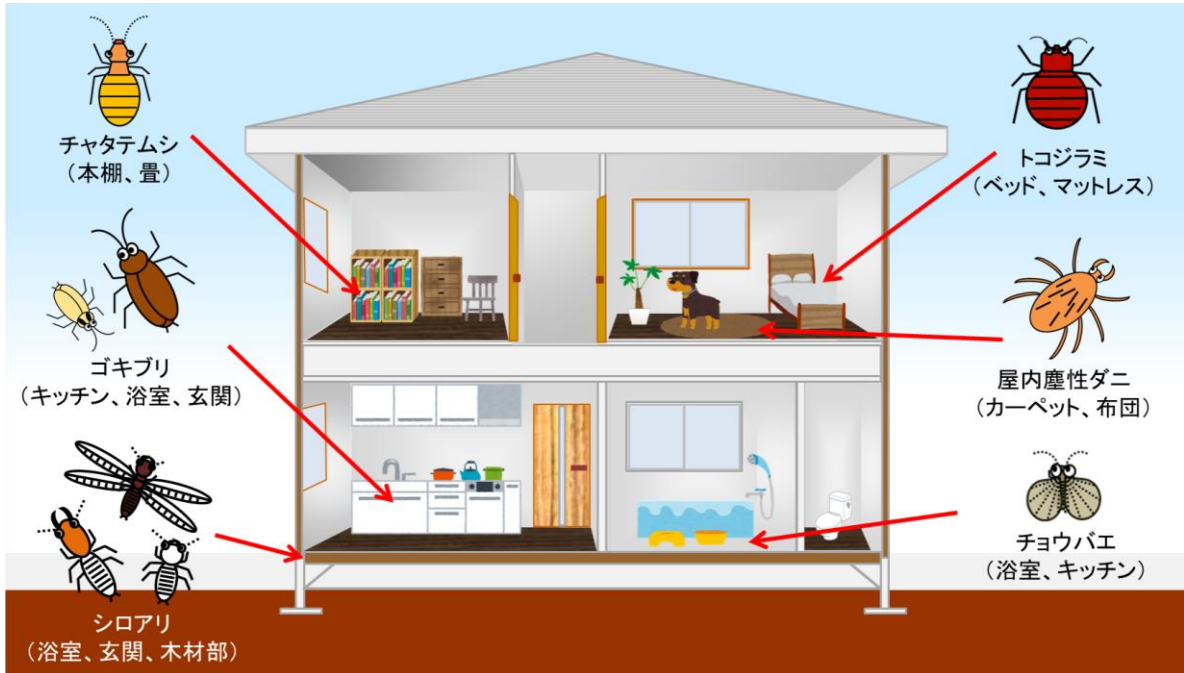
4月も中旬となり、暖かくなり始めました。気温の上昇と共に、害虫類の活動が活発になり始めます。住宅やマンションなどの住環境では、今の時期頃から厄介な害虫達が見られるようになります。

住環境で見られる害虫の種類

住環境で最も多い害虫と言えば、チャタテムシや屋内塵性ダニです。両種はほとんどの住宅やマンションに必ずと言って良いほど生息しています。非常に小さいため、通常、生活している中ではあまり目に留まりませんが、大量発生すると不快感や痒み、アレルギーの原因になります。


ゴキブリやチョウバエも住環境で発生しやすい害虫です。キッチンや浴室など様々な場所で発生し、不快な気持ちにさせる嫌われ者です。また、どこにでもいる種類ではありませんが、最近ではトコジラミという吸血性の昆虫が、ベッド付近で発生するケースも多くなってきています。

シロアリは建物自体を加害する害虫で、北海道の北部を除く日本全国に広く分布しています。主に床下などから侵入するため、なかなか気づきにくいですが、加害されると屋内に大量の羽アリが飛び出すため驚かされます。




各害虫の生態や対策

チャタテムシ	
発生源	カビ、カビの生えた食品、穀粉、貯蔵食品 (生息場所: 本棚、畳、キッチンの棚など)
生態	体長1~2mmと小さい。翅のある種とない種がいる。 高温多湿を好み、梅雨や秋雨の時期に多い。 高気密の住宅などでは、結露やカビなどから発生しやすい。
被害	大発生することで不快感を与える。 食品を加害し、異物混入の原因になる。刺咬性はない。
対策	カビが最大の発生源であるため、カビの除去や殺菌が有効。カビの生えた食品は捨てる。室内に湿気が籠らないよう、換気や除湿を行う。 殺虫にはエアゾール剤や炭酸ガス製剤が効果的である。




ヒラタチャタテ

屋内塵性ダニ(ヒョウヒダニ、コナダニ、ツメダニ)

発生源	人の垢やフケ、有機物 (生息場所: 塵や埃、布団などの寝具、ソファ、カーペット、畳など)	
生態	ヒョウヒダニ、コナダニ、ツメダニの3種類。体長1mm以下と非常に小さい。住環境のあらゆる場所に、ごく普通に生息している。	
被害	ダニの死骸や糞を吸い込むことで、アレルギー性疾患の原因になる。ツメダニは刺咬性の種類で、刺されると発疹や痒みが出る。	
対策	部屋の換気や除湿の他、寝具の熱乾燥が有効。埃の清掃も重要である。殺虫には専用の殺ダニ剤の散布が効果的である。	


ヒョウヒダニ

ゴキブリ(クロゴキブリ、チャバネゴキブリ)

発生源	あらゆる食品、食品残渣、ゴミ、有機物など (生息場所: キッチン、浴室、玄関、植木、寝室など様々)	
生態	クロゴキブリは体長約3~4cm、チャバネゴキブリは体長約1~1.5cm。チャバネゴキブリは屋内のみだが、クロゴキブリは屋外にも生息。小さな隙間を好み、炊飯器やテレビの中などにも入って繁殖する。	
被害	不快感を与える。食品を加害し、異物混入の原因になる。食中毒菌を媒介する。	
対策	餌となる食品残渣やゴミの清掃が最重要である。殺虫にはエアゾール剤など各種の薬剤があり、場所や環境に合わせて選択する必要がある。ベイト(食毒)剤などの併用も効果的である。	


クロゴキブリ

チョウバエ

発生源	有機物汚泥、食品残渣 (生息場所: 浴室、排水パイプ、側溝、浄化槽など)	
生態	体長1~5mmの蛾に似たコバエ。幼虫は小さなイモムシ状で、浴室や排水パイプなどに付着した汚泥や水垢などから発生する。	
被害	不快感を与える。食品への異物混入の原因になる。ハエ蛆症の原因にもなる。	
対策	浴室の排水口や排水パイプなどに堆積した汚泥や水垢の清掃が基本。成虫の殺虫にはエアゾール剤、幼虫の殺虫には配管洗浄剤が効果的である。	


ホシチョウバエ

トコジラミ

発生源	人間(生息場所: ベッド、マットレス、ソファ、畳、障子など)	
生態	体長5~7mm、人間専門の吸血昆虫で、カメムシの仲間である。夜間、就寝中にベッド裏などから這い出て吸血する。近年、ホテルなどを中心に増加している害虫の1つ。	
被害	吸血されると激しい痒みが生じる。痒みは刺された当日よりも2日目以降の方が強くなる。感染症などは媒介しない。	
対策	殺虫には有機リン系やカーバメイト系の薬剤の散布が効果的である。わずかな隙間に入り込んでおり、隙間への薬剤処理が重要。市販のピレスロイド系の燻煙剤などには抵抗性があり、効果が低い。	

トコジラミ

シロアリ(ヤマトシロアリ、イエシロアリ)

発生源	木材、紙、繊維 (被害場所:浴室、玄関、キッチン、トイレ、畳、家具、ウッドデッキなど)	 <p>ヤマトシロアリ (上:働きアリ、下:羽アリ)</p>
生態	家屋を加害する大害虫。ヤマトシロアリは体長3~6mm(羽アリは4.5~7.5mm)、イエシロアリは体長3.5~6.5mm(羽アリは7.4~9.4mm)。地中に巣を作り、床下の基礎や束石、配管などを伝って家屋に侵入する。蟻道と呼ばれる土で出来た小さなトンネルを作り、その中を移動する。ヤマトシロアリでは4~5月、イエシロアリは6~7月に羽アリが出現する。	
被害	被害を受けると木材の強度が下がり、建物の耐用年数が下がる。雨漏りや配管の水漏れなどの個所は被害を受けやすい。コンクリート造りの場合でも内装の木材などは被害を受ける。断熱材が食害を受けるケースも多い。	
対策	被害を受ける前に、シロアリの予防消毒を実施することが重要。予防消毒では床下への薬剤散布(土壌処理と木部処理)を行う。薬剤の効果は徐々に薄れるため、5年毎に再度実施する。薬剤は人やペットを含め哺乳類への安全性が非常に高く、成分が酸化しにくいいため匂いもほとんどない。シロアリが発生した場合は、発生個所への薬剤散布で駆除を行う。ベイト工法と呼ばれる、薬剤散布を行わない、食毒剤による防除方法もある。	

その他の害虫

住環境にはこの他にも、お米に発生するコクゾウムシやノシメマダラメイガ、犬や猫などのペットに付くノミ、屋外から侵入するムカデやヤスデ、衣類に穴を開けるカツオブシムシやイガなど様々な害虫が発生します。上記でご紹介したように害虫の種類によって、発生する場所や対策の方法は様々です。駆除や対策には害虫の生態を知り尽くしたプロにお任せ下さい。

害虫でお困りの方、弊社までご相談下さい。

食中毒情報

今月も依然としてノロウイルス食中毒が多発していました。4月に入っても多い状況です。マルマに持ち込まれる検便検体でも、まだノロウイルス陽性が毎日のように出ています。ピークは過ぎても、ノロウイルス食中毒発生の危険性はあるので、注意を怠らないようにして下さい。

今月は、はちみつを原因とした乳児ボツリヌス症による死亡事故が発生していました。これは食品に含まれていたボツリヌス菌が乳児の腸内で増殖して発症する病気です。過去の事例としては、はちみつの他に井戸水が原因になったケースが報告されています。大人の場合は、ボツリヌス菌が腸内に入っても周りの腸内細菌に負けて増殖することが出来ません。しかし、まだ腸内環境が未発達な赤ちゃんの場合は、ボツリヌス菌が増殖して毒素を出すため、食中毒を発症することがあります。1歳以上の人にとっては、ハチミツはリスクの高い食品ではありませんが、1歳未満の乳児には食べさせないようにして下さい。

全国食中毒発生状況
(3/15~4/14 新聞発表分等)

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	24	419
カンピロバクター	5	46
寄生虫	5	5
ウエルシュ	3	164
不明・その他	11	125

『ひとつ、ふたつ...快適環境を生み出します』



メールアドレス: info@maruma-ec.co.jp

本 社	／ 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11 TEL: (053)464-6400 FAX: (053)465-4120	名古屋支店	／ 〒452-0946 愛知県清須市廻間 1-5-9 TEL: (052)325-3306 FAX: (052)325-3326
東京支店	／ 〒194-0004 東京都町田市鶴間 424-1-402 TEL: (042)850-6454 FAX: (042)850-6456	関西支店	／ 〒658-0026 兵庫県神戸市東灘区魚崎西町 2-4-15 TEL: (078)842-6755 FAX: (078)858-6802
静岡支店	／ 〒422-8046 静岡市駿河区中島 960-1 TEL: (054)202-0210 FAX: (054)202-0220	福岡支店	／ 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑 1 丁目 6-15 TEL: (092)586-6421 FAX: (092)586-6321